A. Shibashi dani, hegataku miyuru, yononaka ni ;
urayamashiku mo, sumeru Tsuki kana.

B. Since my departure for this dark journey ;
makes you so sad and lonely,
Fain would I say though weak and weary ;
And live for your sake only.

女學雜誌第貳拾八號目次

●社說　酒毒の遺傳(レビット夫人)
●新報　十六則
●論說　女子教育策の一端(中島とし子)
●叢話　めしつかひの事○西洋婚姻談第三回○日本婚禮の風俗集第五○女學隨筆をみなへし第三○女學時論の大概
●批評　賢女脩身事蹟の評
●佳傳　梅香女史の傳第十一回
●寄書　地方婦人改良の困難
詩歌三首
●廣告

甲。暫だに經がたく見ゆる世の中にうらやましくも澄る月哉(藤原高光)
乙。限とて別るゝ道のかなしきにいかまほしきは命なりけり(桐壺更衣)

●七月の遊び京の知せ

●合歡の花(綾瀨)○納凉(兩國河開、大川邊、不忍池、麻布古川邊、芝浦)○瀑布(王子稻荷、瀧の川、同辨天、目黑不動、角筈村)○魚釣(深川木場邊、大川通、品川沖、佃嶋沖、立川)○釣堀(向島、淺草田圃、本所津輕邊、深川黑船稻荷、小石川春日町)○蓮(木母寺、不忍池、溜池、三圍池傍)○蕣(染井植木屋、入谷)○虫聞(青山十二社)○松虫(御茶の水、王子)○鈴虫(外櫻田堀)○轡虫(根岸、大塚の原、巢鴨康申塚)

●七月のれな鄙と都

●蓮○百日紅○鳳仙花○鳳蘭○百合○凌霄花○剪秋羅○秋海棠○牽牛花○茶蘭○矢車○河骨○慈姑花○夏水仙○れよのまゆれき○ぎぼうし○おぢさい○ひるがほ○夏菊○

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第貳拾八號（明治十九年七月五日）

●社說

左の一篇は前号雜報中に記載したる米國婦人禁酒會の書記にして今度万國遊說の途次吾國へ來られたるレビット夫人より惠送ありたる者の譯文なり議論清潔有益にして吾人の尤も同感をる所なるが故に今茲に掲て社說に代ゆ

○酒毒の遺傳

マーリー、レビット夫人

士師記第十三章八節に云く將に生んとする子を何如に取扱ふべきか吾に敎へよ

昔しイスラエルの民偶像國民の奴隷と爲る當時神ぐろの慈悲心を以て之を救ひ玉ふにハ甚だ不思議なる方法を用ひ玉へり即ち後に此民を導き助たる救者（サムソンと名く）の母に天使神の言を傳へて曰く爾愼みて淸酒醇醪を飲む勿れと母の夫（マノアと名く）大に掛念して亦た天使に見え此子の禮は何如ん我儕何如に彼に行ハんやと問へるとき天使復ひ答ふらく吾が汝の妻に告る所と彼をして順ハしむべしと此れ盖し神がイスラエルの民を救ひ玉へる不思議の方法なり

斯の如くしてサムソン生れ出たり吾人この談に付て考ふるとき神が一人を擧て之に特別なる仕事を爲させんと思ひ玉ふや啻に其人をして飲酒を禁せしめ玉ふのみならず其兩親として亦均しく之を禁ぜしめ玉ふを知り又た其人をして此特別なる仕事を行ふに適せしめんが爲に母の禁酒より生ぜる利益を彼人の体中に遺傳させ玉ふと知る之に反し兩親の病と罪とを其子に遺傳する趣は亦た聖書の中に明文あり耶利米記第三十一章二十九節に云く父酸き葡萄の實を食て子の齒齼くと又出埃及記第廿章五節に云く神ハ父の罰を討して子孫に及ぶし其三四代に至ると遺傳の方則ハ數百年間を通じて尙確に行るゝと吾人が視て之を神の命令と思ふ程なり近來學術上の研窮によりて之を考ふるも此方則も亦確に眞理なり故に一家族の性質も其身体上心理上道德上の何れなるを問はず皆代々に遺傳するものなるべし去れバ恐るべし軟弱、汚疵、疾病等は其身心德のいづれにあるに係らず必ず子孫に傳ハるべし兩親の習慣となれる嗜み好みの如きも亦必らず子供に其質を遺すならん果して然らバ何故に飲酒と飲酒の毒とも此明なる法則の外にありて之を子孫に遺傳せざる者となぞを得る乎

此等決して彼の法則の外にあらず凡ろ飲酒する兩親が其身に受るもろくの病毒ハ皆之を其子に傳ふるなり吾人ハ今ま飲酒より生ぜる病毒の夥しきを見るときは其何如に恐るべき遺物なるか

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

を歎ぜざる可らず抑も勞病、リウマチズム、脚風、サールホシス肝臓衰弱、卒中風、頭腦軟溶、心臓病、癲癇、腎臓病等は皆な此病毒のうちに在りて病毒此外尚數多あり英國に有名なる醫師某曰く蒸餾若くは泡醸したる酒(燒酎又は淸酒)を過用したるの病毒は大抵皆な子孫に傳はり其の害は少くとも三四代に遺る去れば疫病遺傳の人民も若し代々飲酒の習慣を傳へば其の人種遂に全く消滅するに至らんと又同國倫敦の博士ノルマン、ケル曰く大酒より起る肉体上の病毒例へば酒性勞病、酒性リウマチズム、酒性脚風等は其毒を未生の子供に遺傳すると多しと亞合衆國某都の病院にある醫師等同博士に狀を送りて云く吾等の屢ば目撃する所によれば赤子にして其親か飲酒より蒙りたる病の一つ二つをうけつぎ生れ出でゝ僅に息をするや乍ちに死し或は數日數週間甚だ憐れむべき生存をなして則ち死せるもの多しと然れども酒の毒は尚多し兩親の飲酒は其の心腦を傷むるが故に其子にも亦た腦及び諸の神經系の衰へたる性質を傳へ且つ之に係れる種々の神經病を傳へ尤も恐るべきはかの酒性卒中風と云へる病とも傳ふるなりよし例令ひ斯く甚しき病毒を傳へざるとも其傳へたる神經系、意志、智力等既に弱きときは此子が有益の事を爲すには必ず多少の妨なき能はず此が爲に其子特に女兒は神經質となり又子宮病質となり又男兒は軟弱、不熱心、片意地等の惡質をうけ決して恃む可らざるの人とならん故に斯る子供等は何如かの大事ありて甚しき感動を受るときは多くは發狂すべし彼愚人は多く酒飲の子供なるよしに付て頭腦及神經系に飲酒の毒なることを知るべき也博士エル、ミッチエル下院に白して曰く酒飲の子供にも愚人割合に多しとマッサチウセッツ州の博士エス、ジー、ホーウエは甚精密なる吟味を遂げたるのち同州内は愚人の半數も皆な酒飲の子なりと云へり吾人は同州内の酒飲は甚だ少數なる由をきく蓋し同州人口の半數に足らざるべし然るに愚人の半は皆酒飲の子なりと云へば飲酒の愚人を生ずる害甚大なるを知るべし又きく健康なる夫婦婚姻して先きに一男一女を擧げたるに皆心身共に強健なる美兒なりき然るに其後夫婦ともに飲酒することとなり後ち四子を擧たるに一人は心弱く三人は愚人なりしと云へり又きく夫婦ともに大酒するものありしに其子七人皆愚人なりしと抑も如此き實例甚多し今其一二を擧るのみ亦如此き理論は佛蘭西、英吉利、亞米利加等に有名なる數多の醫師及び前述したる諸博士の總て一様に承知する所也飲酒の質血緣に遺傳することは今人啻に之を知るに非ず古人も亦均しく承知したる悲しき實事なりブリウタークは記して曰く酒

飲は酒飲を生むとアリストーテルは教て曰く酒飲の毋と相似たる子供を生むとゆえに博士ケルも亦曰く酒性病毒の遺傳素より悲むべしと雖もかの酒癖の遺傳の更に悲むべく更に激烈なるに比すべくはあらざると蓋し此遺傳やよく禁酒したる所の者をして遂に多くの病毒を起さしむる甚だ恐るべきものなり抑も外部の好機會又は誘引等によりて遂に飲酒するに至るは甚だ稀なりたゞ過勞したる時又は失望すべき事情あるとき又は北東の風寒を覺らざるとき等に忽焉として遺傳の酒癖を發そると甚だ多しとす吾人再び博士ケルれ言を引んに曰く大凡そ斯る酒癖を遺傳したる者を其地位と職業との何たるを問はぜ或は全く禁酒し得べし或は過度に飲酒すべし決して酒量を節する能はず故に酒癖の遺傳あるものに酒飲の習慣を接合せたるものは殆んど皆な其節酒を爲す能はざるに失望そらん思ふに神の恩惠の外は何物かよく斯る人を救ひ得べき（未完）

●新報

○接吻　歐米の禮にキッスと云ふとあり口と口と相合せて親密を表そる式なり譯して接吻と云ふ近來西洋の新聞に接吻の事甚多く或人は一日に夫婦して一百二回接吻したりとの統計を掲げ或は近來英國に接吻戯と云へる遊事の大に流行する趣を報じ或は日耳曼のパーデンにてある田舎者ダマリア公女に强て接吻したり否然らざるなど最と喧しく論じおひ此際希臘のサキオ島にて接吻踊の行はるゝことを特更に報告などす然るにかゝる報告ある毎に吾國の諸新聞紙は好き談柄を得たり貝に皆一樣に面白く綴りて其紙上に掲ぐるより吾國にも亦た近來連に之に注意し世人が昔し之をはじらひたる掛念もやうく薄らぐ樣となれり然れど吾人は斯る禮式の吾國にも行れんとは敢て望む所にあらず世の人が之をはじらひざるを反つて喜ぶものにあらず吾人も西洋の人々が吾國人に對して斯る禮式を行はせんとするも亦希望する所にあらず蓋し如此き禮式を急に輸入すべき者にあらざる也

○婦人の服制　去十七年中婦人服制の儀に付宮內卿より其向へ內達の趣も有之しが自今も場合により　皇后宮に於ても西洋服裝御用可被遊に付皇族大臣以下各夫人は朝儀を始め禮式相當の西洋服裝隨意に相用うべき旨を去月廿三日伊藤宮內大臣より皇族并に大臣勅任官有爵者爵香間祗候等へ通達ありたる由

○粧飾の注意　文部省視學官より今度各府縣へ女教員及女生徒よりして浮華の粧飾をなし又も異樣の風体となすも教育上に害じき不都合なれも精々質素を旨とし心得違これなき樣ありたしぞ

通牒ありたる趣尤も喜ぶべき佳報なり

○レビット夫人　は去二日木挽町厚生館にて青年會員の爲め西洋諸國人種の墮落の題にて英語演説あり又今五日午后七時半より本郷一致教會々堂にて矯風會の爲め禁酒の演説あり又同夫人ハ此の女學雜誌の吾國に切要なる趣を甚く贊成ありて遠からざるうち特別に一論を草し本社へ惠送あるよしなり尤も本号にハろの演説筆記の送られたるを譯載せり

○華族女學校　にてハ來九月一日以降生徒を增加し初等小學第三級及自余中小學諸級に補充せるに付七月廿日を限り華士族平民の女子中相當の者凡そ五十名を募集せらるゝよし

○横濱フェリス女學校親睦會　去る廿五日午后六時より余ハ招かれて同會へ參り合せたり此ハ近來男女の交際を勸る議論も多けれバ其必要と効能とを示さん爲に率先すべきハ學校生徒なんどの任なれとの主意にて開かれたるものときゝぬ同夜ハ男女あはせて五十余名の來客あり種々の遊藝もありたるが皆な女生徒方役々を割持ちし唱歌。歡迎英語演説(二幼女)。氣車上の會話(一二男子と一婦人氣車上に落合ひ男女交際の必要と談話して今夜フェリス女學校に親睦會あるの主意を暗示し傍ら田舍人の夫婦むくつけく物語なさまを現して尚開化せぬ男女の多きとを慷慨せしめたる妙趣向なり)。奏琴。佚儒英文聖語暗誦。地理上の謎遊(四齣の藝と爲そうち小笠原島と云へる語を悟らせたり)。英文朗讀。洋琴弄奏。社會上の謎遊(四齣の藝を爲そうち物價騰貴と云へる語を現もしたる)。唱歌などありて甚だ面白く其後ハ皆々群集ひて思ひ〳〵に會話するもあり園庭に出でゝ打上る花火を眺るもあり琴を奏るもあり和して亂れず樂んで禮あり甚ぶ好結果を得たりと云ふべし斯て余ハ十一時に歸京す

來客中此會の景況に感じたる者多き由なるが田中平八(糸平)氏一家の如きは最も懇切なる禮狀を送りて其感歎の心を移されたるよし斯れバ向后一年一回づゝと定て此會を續けんなどの計畫もある趣にきゝぬ此樣の淸潔なる親睦會續々として所々に起らんとを吾人の尤も希望するところ也

○頌榮女學校移轉　同校ハ今度白金猿町に校舍を新築し去廿六日午后二時より移轉式を行ひたり余も參り合せたるが來會百余名あるうち寺島顧問官、中村正直、福澤諭吉、渡邊洪基、等の諸氏とも見うけぬ式の中にハ生徒方の英語演説、和文朗讀、洋琴弄奏、英和語唱歌などもあり終に島田三郎ベルベツキ兩氏の演説ありて一ハ女子教育の必要と女子教育と信徒の手にて行ふとの可なるとを述べられ他ハ智德双ら必要なるうち德育の尤も大切

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なる趣を古今の偉人數人の例によりて懇に演ぜられたり
前兩号の女學校集報中には余白なくして同校の報を爲す能はざりしゆゑ今序でを以て茲に揭ぐ
明治十八年十一月私立○校長○岡見清致○英學教師○アレキサンドル○ウエスト○岡見彥三○齊藤かね○三木うめ（裁縫）○魚住幹三郎（和學）○生徒十二人（五月末調）○

○幼稚園　新潟の有志者數名申合せ同區內へ一の幼稚園を創設せんと目下頻りに計畫中なるよし是は重に貧窮者の兒童を敎育するの目的なりとぞ（新潟新聞六月廿四日）又長崎師範學校女學部にても今回幼稚科を設け男女齡三年以上六年以下の幼兒を保育さるゝよし六月九日鎭西日報に見ゆ

○公立長岡女紅場　同場は創立以來利薄くして維持しがたく殊に昨年の類燒によりて再び建てハ建てたれど到底此儘にて持續すると能はざるに付本日限り閉場する由なるが同場の跡を小林傳作氏が引受け更に事業を擴張し是迄每三百疋の絹海氣の織出ありしを增して三千疋程織出し之を北海道へ掛て盛んに賣捌く筈に略ぼ內相談を決したるよし（六月十五日越佐每日新聞）

○工女の同盟罷業　歐米にて度々同盟罷業の行はるゝとをきくが甲府山田町の生糸紡績場にては此頃百余名の工女同町の寺院に會し連りに蚕糸業組合規約の殘酷なるとを述べて何事とか談論するよし同地の新聞に見ゆ日本工女の騷動ハ之を以て嚆矢とす其可成早く平和に歸せんと吾人の切望する所也

○女子大學に入學せんとす　此比二人の女子ハ帝國大學の醫科大學と理科大學とに入學を出願せし由なるが全体男子と女子と竝べ敎ゆると否とハ西洋諸國にても其習慣同じからずして獨逸にてハ大中學等の學生は專ら男子に限り女子の入學を許さゞるの規則あるも米國ハ女子と雖ども大中小學に入りて男子と同じく敎育を受くるとの自由あり我邦に於ても從來女子の敎育淺薄なるを以て婦人にして大中學に入學せんと欲するものもなきにつき政府に於ても別に女子の入學を禁ずるの規則なかりしが今度右志願者につき同大學に於てハ其處置に苦しみ或ハ之を許すべしと云ひ或は禁ずべしと云ふありて其許否容易に決着せざりしが之を許すべしと云ふ說終に勝利を得當時文部大臣に伺中なりと云ふが知らず文部大臣は如何の指令を下さるゝや（六月廿二日朝野新聞）

○八大美人指名　今日新聞社の小野耳風氏が催にて東京府下の奥方、本妻、藝者、娼妓、處女、權妻、後家、雇女中より八大美人を指名せしめんため投書を需らるゝ由此ハ抑も何の益あるとにや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○米國禁酒會　内外新報へ茨木宗太郎氏よりの通信中に云く禁酒會ハ種々有之候へども大別すれバ二箇の目的より成る一ハ耶蘇信徒が道德上の考よりして禁酒と希望するに出で他ハ衛生家が理論上より飲酒の禁ぜざる可らざるヿを主張するに由る如此く二種の差別ハあれ共耶蘇信徒の結合より成るもの最も勢力を有し就中婦人禁酒會（名義ハ婦人禁酒會とあれ共實際婦人のみに限らず僧正牧師其他信徒中の有志者等之を保助し居れり）の如きハ現今余程盛大なる會合と相成居常に會員中より適當の婦人を選擧して合衆國何れの所と問ハず四方に奔走して或ハ寺院に或ハ學校公會堂に於て演説をなし賛成員を募り禁酒の目的を達せんヿを計るものに候ヽヽ當合衆國にて禁酒論の勢力を有する尋常一樣ならざるヿハ左の一事にても推測され候即ち現に聯邦中七州八州會の決議に依て法律上飲酒ハ勿論酒の賣買を禁制し其州內に於てハ一人として醉脚蹣跚たる不体裁を示すものなしヽヽ此頃紐育の青年雜誌に在日本の宣教婦人より通信を載て云ふ日本にてハ男子も女子も小兒も大人も上下貴賤の別なく一般に酒を飮み煙草を喫するの風俗あり云々と余ハ之を讀で大に感動したり當合衆國にてハ何如なる下等社會と雖も婦人ハ決して喫煙をなすものなく又飮酒をなすものも未曾て聞かず云々

因に云ふ彼のレビツト夫人ハ本文に云ふ所の婦人禁酒會より派出して万國に遊説する者なり

○王女隊の組織　本年の一月頃より新紐克府の熱心なる婦人達が盡力にて王女隊なるものを組立てしが右ハ十人を以て一隊とし已に同府にて其一百隊あり尙やブルークリンに於ても其四分一に下らざる程ありて其勤むる所ハ貧人を扶助し病者を看護し職業を得ざる人の爲に之を見出すヿ等にて會長ハ同府のバツトーム夫人なるが已にかの名高き英國の救世軍の如きも會長ブース氏よりも寧ろ此夫人が重に之を擔任し居らるヽ由其事の活潑なる五尺の鬚丈夫として殆んど愧死せしむ（六月卅日基督教新聞）

○妻を毆つ者ハ鞭つべし　合衆國の元老院議員ロバートアダムス氏ハ近頃妻を毆打したる者を罰するの議を發し各裁判場に鞭笞場を設け毆妻者をして警誡せしむべしマリーランド州にてハ千八百八十三年に曾て此方を施行したりしに其結果頗る著しく妻を打つ者全く絶つに至りたりと述べられたり

○婦女の擊劍　佛國リチン改進新聞にアスチエーと云へる佛國の奇女が某新聞に投書し婦女教育の事を述たる中に婦女に擊劍せしめ世間婦女子の懦風を去り强勇の母と强健なる娘とを出して益す子孫を健康にすべしと論ぜりとぞ

●論説

○女子敎育策の一端

第一篇（二）　湘煙女史　中島俊子

○○第一衣服ヲシテ身軀ニ適度ナラシメ起臥行歩ノ自由ヲ妨ゲザル可ク注意セザル可カラズ。精神ノ活潑ナル、ハ固身體運動ノ活潑ニ原ヅカザルハナシ我邦ノ衣服ハ寛大ニシテ皮膚ヲシテ壓鬱ナラシムルノ憂ナキモ唯無益ニモ身ニ適セザル長衣垂袖ヲ作リ都テ身軀ノ自由ヲ失ハシム隨テ生長ノ發育ヲ妨ゲ衣服ノ運動ニ不便ヲ感スルヲ以テ一室内一庭中ト雖モ行歩ヲ試ルノ懶キヲ生シ知ラズ識ラズ健康ヲ害ス健康ヲ害スルニ從テ精神モ不活潑ナラシム是レ則學齡ニ及ンテ不健康ノ身體以テ十分ノ勉強ニ耐ユル能ハズ不活潑ノ精神以テ勉學ノ働キヲ現出シ得ザル所以ナリ故ニ第一著衣服ヲシテ輕便自由ナルモノニ爲サヾル可カラズ我邦ノ衣服ハ輕便自由ナラザルモノニ非ラズ然レ𪜈何ノ故ヲ以テカ獨リ二三歳ニ至ル迄ノ小兒ヲシテ特ニ身ニ不適當ノ衣ヲ纏ハシムルハ甚タ宜シカラズト信ズ且ツ余以爲ラク一般運動ノ活潑ナラザルハ家ヲ出ル每ニ必ス衣ヲ改ムルノ習慣是レナリ若シ特別ノ事ニ非レバ平常ノ儘ニテ出ルノ習ヒタラシメバ其出ル每ニ俄ニ沐浴梳櫛更衣ノ如キニ空ク時ヲ費スノ憂ナクシテ輙ク運動ヲ爲シ得ルナル可シ然ラズシテ新ニ沐浴梳櫛更衣ノ煩キヲ取リテノ後ニ非レバ出ル能ハザルノ習ヒタルヲ以テ其出ルニ臨ンデハ先第一天氣ノ如何ヲ窺ヒ衣服ノ如何ヲ擇ビ然ル後漸ク門ヲ出ルヲ得ル而若シ風景ヲ弄ブ目的ニシテ半途風雨ニ逢テ其愉快ヲ殺グカ又ハ友人ヲ訪フ目的ニシテ其人ノ家ニ在ラザル如キ不快ニ遭遇スル時ハ他日愈ヨ運動スルノ情ヲシテ疎然ナラシム是レ他ナシ一タビ家ヲ出ルニ餘リ其身支度ノ大層ヲ感スルニ因ル人ト爲リテ後チモ自ラ朋友ヲ訪フテ談話以テ耳ヲ悦シムル山川ヲ探リテ景光以テ眼ヲ慰スルカ如キ至リテ稀レナリ故ニ會マ人ト交際スルモ其見ル處其聞ク處太ダ多カラザルヲ以テ時氣ヲ述ブルノ外ハ互ニ默對スル耳ニシテ毫モ交際ノ愉快ヲ感セザルノミナラズ却テ交際義務ノ煩シキヲ覺ユルノミ交際ハ人間ニアリテ最モ智識ヲ增殖スルノ貢媒ナルモノナリ而前條ノ如キ原因ヲ以テ女子ガ交際ノ區域ノ少〻ナル宜ナル哉女子ノ都テ男子ニ後ル、ヤ嗚呼思ハザル可ケンヤ

○○第二之レニ次グモノハ食物ノ注意ニシテ是レモ亦他味ノ好惡ヲ辨セザルノ前ニ於テ成ル可ク滋養品ヲ嗜シムノ習ヒタラシム可シ食物ハ其味ノ善惡ニ拘ハラズ慣ルヽモノヲ以テ最モ口ニ適スルモノト爲ス夫レ故ニ初唯菜蔬干魚ノ類ノミニテ養フ時ハ他日

俄カニ鮮肉等ニ改メントスルモ大ニ之ガ困難ヲ覺フ今日ノ父母ハ猶多ハ菜蔬干魚ノ養育ヲ受ケシ時代ノ人少トセズ是ヲ以テ自然已レノ嗜シムモノヲ以テ其子ニ與ヘントスルモノナレバ余之レガ注意ヲ望ム

○○第三別ニ一室ヲ與ヘテ其兒ノ居所ト定メ種々ノ遊器ヲ具ヘ以テ歡ヲ買ヒ以テ智識ヲ培養セシメ決シテ倦懶退屈ノ情ヲ起サシムル勿レ小兒ヲシテ倦懶退屈ナサシムルヲ以テ最モ害アリト信ズ中等以下一般ノ家ヲ見ルニ小兒ハ宛モ大人ノ食客ノ如クシテ其何レニ起坐シテ然ル可キヤ其何ヲ爲シテ然ル可キヤヲ知ラズ唯日時ノ長キヲ感シ大ニ倦懶ノ情ヲ興シ終日母ノ腰下ニ纏綿其至ル處ニ從テ甘キヲ乞フノ外ナカリシ母其兒ノ已レノ身ニ纏フテ用ヲ達スル能ハザルノ煩ハシキニ困シ食ヲ與ヘ怒罵叱咤シ之ヲ家外ニ遊バシム家外ニ在リテハ馳驅惡童ト群ヲ成シ其遊ブ處ハ犬ヲ趁ヒ虫ヲ取ル如キ精神飄蕩トシテ大ニ微妙沈重ノ處ヲ失シ學齡後平心靜慮以テ勉學スルノ筋緒ヲ絶タシムルニ至ル是レ父母ノ注意ヲ望ム第三ナリ

○○第四女子ヲシテ漫リニ種々ノ雜話ヲ聞カシメ或ハ演劇及ヒ其他夫レニ類スルモノヲ見セシムル勿レ我邦ノ女子ハ其默スル時ニ於テハ殆ンド一句一言ヲ出ス能ハザルモノヽ如ク而其話スル時ニ於テハ喧囂其止ル能ハザルモノヽ如シ之レト齊シク其擧動モ高尙ナル席ニ對シテハ頭ヲ垂レ顔ヲ赧クシ默々雨餘花ノ悶シテ仰キ見ル能ハザルモノヽ如ク而服雜ナル場所ニ在リテハ散爽蓬髮喋々風前柳絲ノ飜ヘテ理ム可カラザルモノヽ如シ是レ皆其幼少ノ時常ニ炊婢針婆ノ傍ラニ在リテ其談話ヲ耳ニシ其擧動ヲ目ニシ純然之ヲ摸擬シ來リ全ク下品ノ風習ヲ體受スルモノナリ成人後之レヲ矯正スル至テ難シ又演劇ノ類悉ク以テ弊害ナルモノト云フニ非レ圧今日ノ演劇及ヒ其他之レニ類スル處ノモノハ極テ猥褻見ルニ勝サルモノニ非レバ往昔君臣親子ノ間ニ行ハレシ處ノ專制壓抑ヲ示ス處ノモノニシテ未ダ自ラ已レヲ制シ事ノ善惡是非ヲ裁定シ能ハザルモノニハ決シテ見セシム可キモノニ非ズト信ズ是レ世ノ父母ノ注意ヲ望ム第四なり　（未完）

●叢話

○めしつかひの事

下男下女を使ふものハ何事にもよく心を付けざるべからず特に男子ハ多く外出して家におらざるものなれば此等の下男下女は家の妻たらんものゝ心得にてよくもあしくも使はるゝものなりゆえにめしつかひの行儀様姿を見れバ其家の家風も大抵ハ知ら

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るゝものにて隨では妻君の心得方も人に見らるゝ譯ゆゑよく注意して之を敎ゆべし昔し酒を賣る家に猛けき犬ありければ其酒は甚だ醇美なりしに買ひに來るもの少く味變じてついに酢となれりと韓非子てふ文に見えたり僕婢の亂暴なるために家人の評判を損ずるは之と同じき理なり左れば郭子儀と云へる賢人は宰相の盧杞來り訪ふときは女ばらを戒しめて其坐席へ出さざりき是れ宰相はなはだしき不男なれば女等のもしや笑ひさゝめきなどして敬を失はんかとの心配ありたればなり凡そ人を使ふものは常々此の覺悟あること大切なるが故に今ま斯る心得のあらましを左にかゝげて妻たらん人の注意とひく

一〇 下男下女も亦た人の子なれば何事にも扶慇をかけ成るべく少く使ふやうに心得て暇あるときは讀書を學ばせ世の中の益あることなど話しきかすべし尤も下男に言ひきかすべきとは凡て夫よりし又下女に言ふべきとは悉く妻の口よりひそかに申すべし

二〇 下男下女を働かするには成るべく自身に心付て万事を爲すやうに仕込むべし人は個々まけ惜みの氣性あるものなれば人に命ぜられて爲ると身ら心付て爲るとは大なる相違あり特に身ら爲さんと思ふとを斯くせよなど更めて言はるゝ時は心地のすぐれぬを常とするものゆゑ妻はよく此人情と心得べし

三〇 下男下女に一たん命じたるとを爲さゞるときは自ら之を辨じをき其後しづかに彼の事を忘れたりやなどほのめかすべし凡そ口やかましく叱るは五六才の小供にそら何は効なし況して成人したるものは益すあしき心地を起さするの害ある耳

四〇 すべて下男下女に不都合あるときは之を懲し罰するなどの心得にて叱る可らず此後再びさせまじとの覺悟にて温かに取扱をよろしとす

五〇 客人へ對しては最と鄭重に應對すべきやうかねぐ敎え置べし取次の不親切なる若しくは衣物身分などの高下によりて取次に相違あるなどは家内の人の心も見えて甚だ卑しく思はるゝものなり

六〇 來客あるときは次の間などにて笑ひさゝめくとを固く禁ずべし此ほど客人へ對して失敬なるとはあらず

七〇 初て雇ひたる下男下女にはよく家風を言ひきかせ又日々その爲すべきあらましをさとし置べし

八〇 下男下女をして互に淫らの談話をなさす可らず人多く使ふ家の臺所はすべて淫奔の談場所に似たり妻はよく之を心得て預め之をふせぐべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○九　下女ハ特に口さがなくさま〴〵の事をつげ口し世の風評などを爲すものなれども必竟ハ妻より之をきくゆゑなり斯る話を一切好まざる樣に持なせバ自ら下女の口ハ淸くなる者也

○十　朝夕の寢起ハ大抵時間を定め置き平常よりも早く又は晩くなるときハ必ず御苦勞なりしなどの褒美語と云ふべしすべて何事に係らず常よりも多く働かせたらバ其あとにて必ず一應の禮を云ひ置き甚しきときハ相應の物を與ふべし

○十一　土產、御馳走、到來物、などありて家內のもの集りて食するときハ必ず下男下女にも分々與ふべし又日々の菜ハ決して家內のものと異にすべからず假令ひ少くとも必す同樣の品を與ふべし止を得ざるバ主人のみの料理を異にし妻ハ成るべく同樣の食をとるべし

此外尚數多あれども追々に書載せて足ざるを補ふべし

○西洋婚姻談（第三回）

斯て親交するうち互に相慕ふの念いよ〳〵切となり最早結約の運ともなさんとするに當り男子の方より其信心を現さんとて遺物を贈ることあり之をプレセントと云ふ但し正禮と云ふときハ未だ結約せざるに先ち男子より遺物を受ると女子の爲すべき儀にあらず之か爲め後日大に難やむ憂もあるべきに付斷じて之を謝ずべし但し男子より强ひて之を呈せんとするとき若くハ其遺物の極めて輕微なる品にあらずしてたゞ環なんどの類ならバ敢て之を受くべし尤も其父母の目前にて先達てハ御親切に環を御贈り被降眞に有難う存じます父母もし承知いたしくれますれば私ハ喜んで之を頂戴致ます（I am much obliged to you for that ring which you kindly offerd me the other day, and which I shall be most happy to accept, if my parents do not object.）と述べ其厚意を謝するの禮を敦くし反て後日一身に懸り來る責任を輕くすべし

此後いよ〳〵結約の申込を爲さんとするに西洋にては仲媒と介し申入るゝなどのとなく皆な男子より女子へ直さま面談する習ハせなればバ臆病なる男子ハ久しく躊躇して口外するあたハずさなくとも万一女子の承諾を得ざるならバ丈夫の愧此上なからんあど思ふ心もあればバ大抵ハ容易に之を言ひ出し得ず左ればとて之を手帋に認めて送るハ禮にあらず万止を得ざれバ文の使ひも亦た不可なけれども大抵ハ之を宜しからずとするなり紳士にして正禮をとらざる所云る愛狀を送るもの往々あると最とも忌むき行爲にあらざるなり尤も此有樣となりたるとき女子ハもとより愼みて口外すべきとよあらず男子も亦前に申す如き遠慮ともて久しくためらひ双方渦卷のうちを廻り合ひて何事か外よりの

好機會あれかしとも思ふなるべし然れども男子にして紳士たらんもの一生の大禮を定るに何事か掛念すべきとあらん最と嚴肅に堂々として之を申すべし又女子ハ此に至らバ預め其用意を爲し彼方より申出さるゝときハ何如に返事せんかと云へる趣とよく覺悟すべし（毋に相談する心得ハ第一回に述べたり其事初にありて此時になし）いよ／＼彼方より申出るとき其身心より眞に承諾せば靜かに其旨を答ふべし特更に喜びの樣子を現ハさずして可なり反つて之を現ハすとを戒め最と溫和鄭重に返辭すべきなり雙方此に至らバ則ち結約とゝのひたるなり然れど若し女子の方にて不承知ならバ此時何如にか答ふべき其由ハ吾人之を後号に談ずべし

○日本婚禮の風俗集（五）

吾人が此を掲る者ハ如此き悪風の尚存し若くハ其ゝ習の尚ほゝあるとを知らせて一日も早く之を除去せんとを希ふが故にあり本誌第廿二号の緒言を一覽して本志を誤り玉ふ勿れ

肥前佐賀邊にてハ新嫁の來入せし時先づ預め設けたる席に誘ひ暫時坐せしめ窃かに屏後より竈蓋を以て新嫁の頭上を覆ふを例とす新嫁として竈神の呵護に歸せしめ恣に歸去ることを得ざらしめんが爲の禁咒なりと云へり（神田孝平君）

長州舊藩の比にハ新婚したる者年禮に來れバ之に水を灌ぎのくるの風習ありし灌ぐ者ハ大抵婦女なれども間ま男子もかはりて之を助るとあり水を灌ぐ器ハ杯若くハ椀等に限り決して他器を用ひず若し他器と用ふる者あれバ之を不法とす又其場所ハ門の內屏の後等にかくれ其人の入來る時を窺ひ不意に出て之に灌ぐなり故に新婚せし者翌春の年禮にハ甚だ覺悟することとなり覺悟の法ハ大畧先づ禮服數具を預備せざる可らず又物に馴れたる從僕を雇ふを肝要とす蓋し從僕物馴れたる者あれバ善く婦女ハ埋伏せし所を見出し主人をして難に逢ハしめざるなり然れども婦女も亦其謀を覺とり比隣連合して重圍の策に出るが故に往々幾杯の冷水を免れざるに至ると云ふ（同前）

越後國古志郡明晶村邊にてはサルスベリの如き木にて嫁たゝき棒と云物を造り婚禮の晩若者仲間大勢にて新婦の尻を打つ其よめたゝき棒ハ先づ木の皮を削り去り木ハ一端へ向け幾條の薄片を削り掛たる者なり長さ一尺五寸位あり（池田作二郎君）

本誌第二十二号に廣告したる如く各地方の讀者諸君ろの地々ハ婚姻風俗を報告あらんとを乞ふ吾人ハ人類學會の報告を茲に轉載するの榮を得又た吾人へ對し報告ありたるものハ此に掲げ且つ同會へ轉送するの約あるなり謹で再び讀者諸君に請ふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○女學隨筆をみなへし（三）

○才女二人　むかし紫式部は幼きより其身秀で父もをのこの子ならざるをうらみける程なりしかども文讀みとを召し使ふものにもつゝみて一と言文字をだに知らぬもののやうにして過ぎ上東門院に史記ををしへ參らせるなどもいたく忍びける趣其日記に見えたり同じ世に淸少納言がさえがりに口のしみくて男を物のかずともせず大進生昌といへる博士をさるなみけるなど今思ふにもわらげにて後に落ぶれけるなどきくにも親しむ人もなかりけり此女房に及ぶべき才は昔今稀なるべきだに猶から思はるゝ者をまいて並々の女などいみじくとも物の數かは（續畸人傳）

○風流の歌　平相國淸盛の弟薩摩守忠度ある女房の許に忍び居て夜更けるに扇をはら〳〵とつかわれければ女聞て野もせにそだく虫の音よと云げれは扇をつかひやみけり是は歌よ

かしがまし野もせにそだく虫の音よ我だに物を言でこそ思へ

といへる心なりとぞ（京明隨筆）

○熊野の孝　東海道天龍川の東岸に池田と云ふ所あり此所は熊野御前の古鄕なり傳へ云ふ熊野は池田の長が娘なりと其昔京に出て內大臣平の宗盛に仕へける池田に殘れる熊野が母病重しと告こせられは暇を得て老たる母の病を問たしと願ひしかども宗盛寵愛深かりしかば猶もゆるさで彼謠曲につくれる如し一日花見の酒宴にめしだされけるに熊野は君の寵も花の盛も心なくて

いかにせん都の春もおしけれどなれしあづまの花やちるらん

宗盛闘將ながらこの歌をきゝて感にたへかね其座よりいとまたまいけり（前同書）

○女學時論の大概

去廿五日發兌の學藝雜誌第五十七号に外山正一氏の女子の敎育と論じ併て耶蘇敎擴張の法を說くと云ふ一篇の初を揭ぐ大意敎育は時世に相應すべきを今日の時世は開化人との交濟必要なると今日の女子敎育は開化の志想習慣に相應するやうにすべきとなどを論じ家事經濟家內衛生の二科の女子敎育に大切なると今日の婦人が虛榮の心を滅じて自尊の心を代ふるの宜しきとなどと說き終に耶蘇敎の宣敎師が女子と敎育して其文明に近接せしめ恰も女子をして洋行せしめたるに均しき効能を得せしむべしと論ぜり此れ實に適當の議にして信徒の旣に實行する所也橫濱に三の大女學校あり皆宣敎師の掌る所とす東京に二十余の女學校あり其中最も盛んなる七校は皆な宣敎師の大に力を盡す所たり然れども吾人は此議論のいよ〳〵行れて更に完全なる耶蘇敎主義の女學校尙多くあらんとを希ふ

時事新報ハ去る廿三日より廿六日に至る四日間に男女交際余論四篇を掲ぐ(一)學藝を以て交際せしめんとハ今日容易の事にあらず先づ行ひ得べきハ談話の種子と作ると大切なり尤も芝居音曲等の談しハ余り高尚ならざるに付き(二)草木金石山水等の事を語り室内に飾りたる珍器奇物を談柄とする等を宜しとす(三)此際男子も辛棒して女子を敬愛し談話の禮と粗畧にせ可らず女子も成べく自ら資産を所持し自力にて交際の入費に充る覺悟を爲すべし(四)さりとて成べく質素倹約の風にて交際する慣ハせと爲せ事々に金力多き西洋の風ハせんとするハ不可なりと弁じ酒宴衣服等の事ハまで注意を及ぼしたり。

○批評　賢女脩身事蹟　三冊(合百二葉)　定價、卅六錢。

今川痲氏が賢女五十八人の事蹟を批撰ありたるものハて製本美麗、圖畫秀雅、娘孃の讀本及學校の科用に適ぞ批撰宜きを得て巻中に藝娼妓の傳を載そる如き普通の誤もなく一々評を加えて讀者を警戒したるなど用意周密と云べし但だ文辭の難き〻多く人を集めて個々の敘事簡に過たると事蹟を批評そるに終始漢學者の氣風を現ハして西洋愛情の經驗なきが如き〻近世の賢女佳人を漏したると尤も惜むべきなり然れども今日世上に存する賢女傳中ハ此書の如き最可なるもの丶一たると得べし

● 佳傳

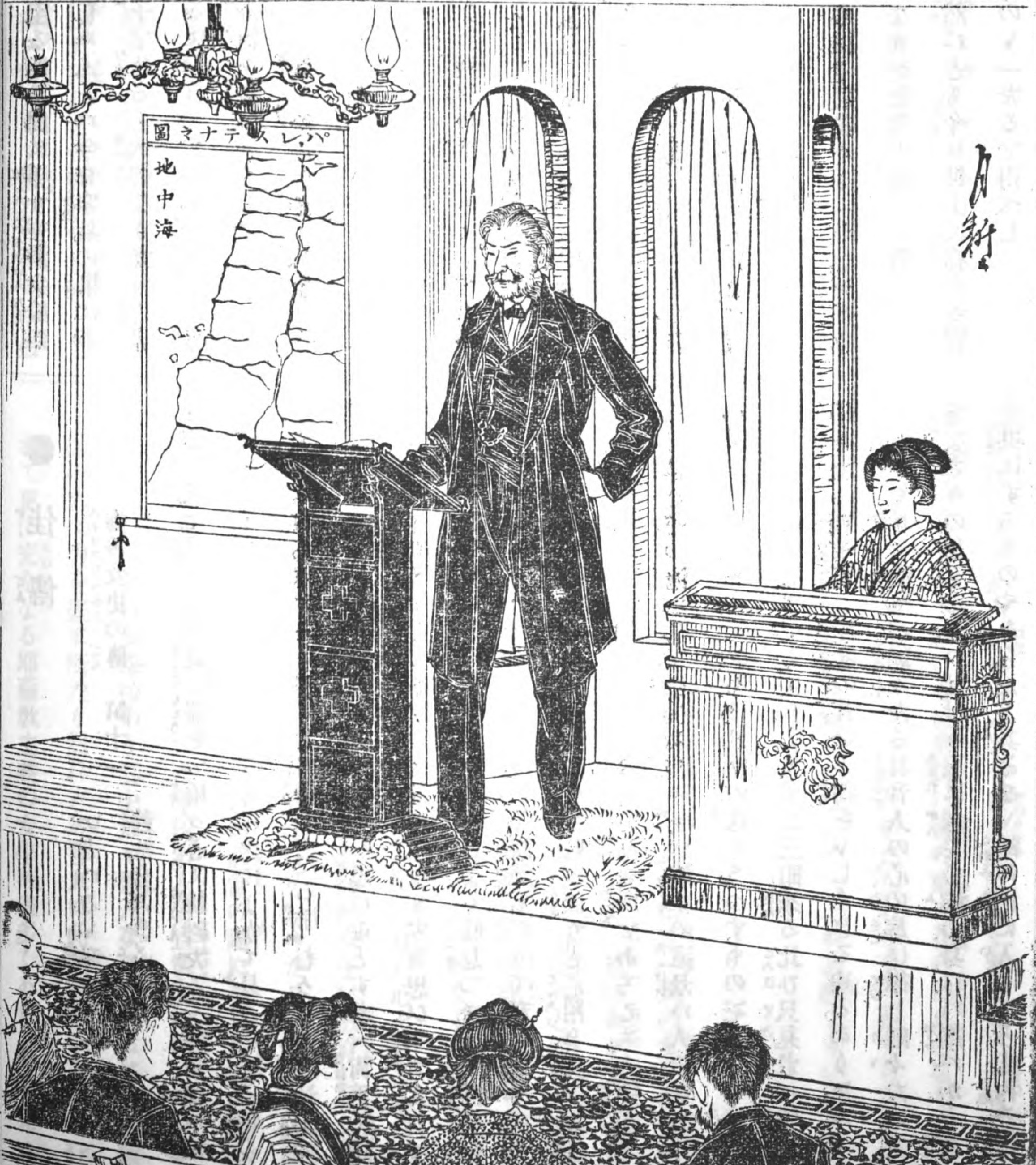
梅香女史の傳　第十一

いとハる丶秋の夕
苦もをほき心の月

さなきだに秋ハ物の哀と催そと梅が心に綿纏たる一種の情ハ恰も是れ世をはかなます目鏡あるらん之によりて見るところ物として哀れあらぬハなし澄める月影、來たる雁、むかしハ風流腸の料なりしも今ハ己が身をかこつ敵なれ思ハそとすれバ尚更に思をやまそ心の駒のながれんとすれバ倘脱すべき思ひ乍ちよして心を冷やし乍ちよして身を温め幾度となく吐息つきて茫然ながめくらす日も多かり今日もやうく課業と終りて秋の夕べのろいろありきハ切めてもの憂となぐさむる便りと心附き獨り若渓の邊をめぐりて上野の山内に入り小高き所とあちこちと逍遙すれば忍ぞぢの池ハ心に耐ぬ思を呼び淺草の遠景ハ人のなさけの墓なきを思ハせて決句られひの樣をうつすものぞ多かりし茲もまた慰みの場ならぢとゆきくて二三町來る比ひ只見れバ室内煌々たる西洋館に洋琴の音いと物そゞしくきこゆるあり思ハず立留りて耳を澄せバ朗々たる其音人の心の底に徹し離々たる其響なさ々の思をふるハせけり哀に感ぞる梅の身にハ斯バかり感を共にするものやあらんと其のまゝ館の門に入りてうろと内を窺

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

へバ此なん世にうハさ喧しき基督教の會堂なり正面にハ威ありて温かなる紳士講談の上に立ち傍にすえたる洋琴を奏するハ最ト淡裝したる婦人なり聽聞の席にハ二八三人の洋婦人も見えて其他ハみな知らざる人々なり讃美の歌終りて紳士やをら說き出る面色よ見ゆれど硝子を隔てたれば梅にきこえぞ聽聞の人ハ皆な知己ならねバ暫し內に入りて教をきかなんと思ひ乍らあまたゝびたゆたひてれち椅子につきたるハ早や說教の前段ほゞ畢りたる比なりけり彼の紳士と見えたる教師此時更に聲を張上げサラバ人間ハ何如して安心立命の地を定むべき諸君或ハ云ひ玉ハん世に功業を立て名を万世よ殘さバ此れ人間の望足れりと然



し試に思ひ玉へ古來の英雄偉人にして功業を立たるものに克く終を樂みたる幾干ありやソクラットハ西洋の學哲なり然れども遂に毒を飲みて死せり孔子は東洋の聖人なり然れども陳禁の間に苦しみ四方に漂流して席暖ならず釋迦は天竺の佛祖あり然れども妻子珍寳王位を棄て遂に山野に暴死せり此等の聖賢尙如此し諸君尙ほ其跡をふんで安心立命の地を得べき乎ナポレヲンは西洋の英傑なり一たび手を擧れバ百万の兵立どころに集り歐洲を席卷して宇内に名を轟かせり然れどものちセントヘレナ島に流されて痛死し今日其嗣なきに至れり始皇は支那の英雄なり六國を合從して天下を一にし阿房の殿長城の跡すゞに成つて樂極らんとす然れども蓬萊瀛州の使未だ歸らずして身則ち死し墳土未だ乾かざるに農夫の一唱乍ちに秦國を覆したり太閤は我國の豪才なり子守草履取の身後ち關白太政大臣となる六雄八將悉く歸服して八十余州平定し韓明威慴して狐龍なほ降參したり然れどもろの天下は二世につゞかざるなり此等の英雄尙ほ如此し諸君尙ほ其跡をふんで安心立身の地を得る乎。又た來聽の貴婦人諸子あなた方は果して亦た何を以て其安心を定め玉ふ乎

梅は聳然身をふるハして其事こそ今ま已れの心に求る所なりと思ふらん教師は慷慨れ面色やゝ愁をふくみて

古語に云ぞや女は已を愛する者の爲に飾ると諸子の望決して斯の如きにはあらざるべし然れども世の學士となり英雄となるもの尙前に述る如し此等の實例以て立命の地を備ふるに足らずとせば諸子の希望さるゝ學業の大成も其實之をはたますべき眞の土臺あらざるべし故に今ま古語に從ひ失敬ながら婦人諸子中かの飾ることを以て其目的とし玉ふ方ありとせんか見玉へクレヲパツラは西洋の美人ありシーザーを迷はして助を乞ひアントニーを迷はして榮を買へり然ども遂にヲクタビヤス凱陣の虜となりたり王昭君も漢の黄門なり三千人ために美を愧づるの容ありしにあらずや然れども黄金の賂を送らざして終身帝王に奉ぜる能はず遂に匈奴に送られて熱涙寒砂を流せるにあらずや小野の小町ハ吾朝の美人なり家に巨万の富あり顔に落花の姿あり然れども遂に大坂山にさすらひ關寺のあたりに物を乞へるにあらずや諸子ハ尙ほ容色の美なることを以て恃むに足れりとする乎

何條かゝることを恃みとせん失敬の事を言ふものかなと梅が思ふは知る人あらず

諸君然らバ果して何が何物かよく諸君を安ず何物かよく諸君

立命の地となるべき富なるか石崇陶朱の富ろの命をすくふ可らざ命なるか五帝三王五伯の人皆な死したり烏獲の力あるも死し賁育の勇あるも死し孔聖盜跖皆な塵芥となれり名譽なるか名譽ハ秋天浮雲の如し譽あれバ茲に毀あり毀なくんバ事を爲す可らざ嗚呼諸君果して何物かよく諸君と樂しまする抑も愛なるか然り〱愛よく諸君を樂しまそべし然れども終始かハらずよく諸君を愛するもの果して此世にありや

實になし實になし吾が愛するものも吾を愛せざ吾が心の愛も吾を愛せず愛なけれバあろ斯ハ人の歎くものなり彼人よくも斯く吾心の底を穿たるゝものよとひたすら感歎して聽き居たり

●モニカの傳ハ余白なきに付次号へ讓り次号よハ可成く佳傳の欄内をひろくそべし

●寄書

○地方婦人改良の困難

下野宇都宮　二見ちか

婦人改良の最も急務なる事ハ今更妾等の喋々を要せぬ事なるが妾もまた改良の事にハ心懸け居るものなれバ熱心是よ從ふも固より學の道とて深く心得ぬものなれバ迚も思ひの十分一をもなし得ざるべし去りながら茲に妾が日頃の考を述べて學の道ふ深き貴女諸君の御敎を乞ひ度き事と存するあり妾が見るところよてハ僅の改良も地方よありてハ容易に行れさる事にぞあるそを如何よと尋ぬるに都よありてハさすがに諸々の學びの塲所も備ハり又た貴婦人方の御盡力よて種々日に增し月に進みて改良よ趣きぬるも地方よありてハ從來の風習よて婦女子の會合又た男女の會合など之れある時は皆々奇異の思を抱き男女互よ言葉を交ふるなどハ以ての外の事となせ斯る有樣なれバ僅かに改良に熱心の婦女あるも到底其の緒に就くを得ざるのみならぞ遂には斯る婦人をバ別種人の如くに思ひて交際などなさぬものとてハ婦人の中には一人もなきよ至る次第よて何とも致方もなく孰れも熱心の人々ハ唯吾が平生の目的の行れざる吾身の信用薄きを慨くより外なきなり

此塲合なれバ地方にありてハ賴みとそべきは女敎師其人より他よ人とてなかるべし去れバ女教師其人が婦女を敎へ導くよ一層注意に注意して日本婦人が從來自ら一身を立る能ハで專ら男子の力のみを賴むが故よ之れが爲めよ賤まるゝみ婢女の如く一旦男子の扶けと失ひなば途方よ迷ふの不幸に陷るの風習を改むるが最も急務のみとよみそ其爲そ手術は外ならざ女敎師其人が自ら自立の氣風と保ち一擧一動之れと謹み殊に修身敎授に於て

れ專ら從來婦人の卑屈心を破り諸德を具へ自立の氣風を養ひ不幸の境遇に陷らしめざる樣つとめ教師自ら他婦人に對する時は言葉の端にも能く改良の事を說き勸め西洋文明の有樣を語り聞かせなばいかでか其効なかるべきや然るに文明の魁日本婦人の改良を計らるゝの位置に居らるゝ婦女諸君にして此に注意の薄きのみならず却て從來の風習に染るが如きは地方に類少なから此有樣にては地方婦人の改良も何時其効の見るゝに至らんか眞に慨しき事共なり日頃妾が卑見を述べて貴社の紙上を汚しぬれば四方に在はする婦女諸君に妾が足らぬ考へも改良を思ふに出るの愚痴なりと思召給はゞ幸ひに御教諭の程こそ望ましけれ

○此頃故近藤賢三の墓に詣でたるに何人とも知れず左の一首と認めたる片帋を水茶碗の下に布て殘せり

半生志業委灰塵。猶謡遺編涕涙頻。幽魂一去今何在。滿目綠陰愁殺人。

鐵面怯夫　拝稿

○庭前鶯　　東京青山　りん女

遠近の梅のかほりを含み來て聲もろともにはなつ鶯

○雨後月　　右　同　人

鶯かと見しは草葉にたく露の月を宿する光なりける

社告

第二回點取文題　女子教育策

右文題に對する寄答は六月三十日を期して〆切と可致旨兼て廣告致置候處現に到着せる答文は尚甚だ少く且つ今月中に附錄とし取纏め出版致兼候事情有之に付ては來月十五日發兌の雜誌即ち本誌第三十二号の附錄と致すべく決定仕候依て尚ほ寄送ある人々は今月末まで送附ありたく希望仕候也

女學雜誌社　編輯局

原稿及び續稿

本社へ寄送ありたる投書の未だ掲載せざる者甚多く且つ前号に掲げ出せる者の續稿にして尚ほ續載すべき者亦多く有之候特に佳傳欄内の如きは成べく廣くして數人の傳紀を併せ掲げ度存候へども紙數の少きより万事不如意甚だ遺憾の至に候依て第二十号即ち本月廿五日發兌の分より少か定價を增して帋數を多くし可成多く且つ可成速に有益若くは珍奇なる原稿を掲載仕度當今其準備を致居候に付看客此意を体し暫く寬容あらんことを乞ふ

編者白○前号發兌以來岡山縣小野さくら○言志學會詩集○神奈川ケーエヌ女史○伊勢國小竹啓二郎○備後國藤田作三郎○筑後西原いの○紀伊國安原士權○諸氏よりの投書正に落手したり

書籍取次の事

●男女交際論(福澤諭吉著)一冊　十四錢
●ひざもとのをしへ(近藤眞樹夫人述)一冊　十錢
●日本の意匠及情交(田口卯吉著)一冊　廿二錢
●婦人地球週遊記(内田彌八譯述)一冊　七十錢
●賢女脩身事蹟(今川甫批撰)三冊　卅六錢
●月琴俗曲ひゞきの余興(長原梅園女子輯)一折　廿錢

右本社にて取次ぎ郵税は要せず定價の儘にて送附可仕に付注文の方は小爲替にて送金あるべし其他何樣の書籍にても府下の書肆にて出版せし者は其書肆の名を記し定價の金員を送らるれば總て本社にて運送賃を便じ早速取次ぎ送附可仕候

●以上●

東京本鄕弓町一丁目廿番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

農業雜誌

一冊正價五錢。半年分郵稅共一圓。一ヶ年分郵稅共一圓八十錢。

右農業雜誌ハ去る明治九年より引續き出版いたし居候處今般更に改良を加へ其番面を大にし圖畫を精密にし成べく分り易き文字を用ひ實地に利益ある農藝幷に時事の新説北海道の錄事等を記載致候間物産興起に志ある諸君に最も有益の雜誌なれバ御購讀あらんことを乞ふ

東京麻布本村町 學農社雜誌局

二白改良農業雜誌見本御入用の御方ハ郵便税金一錢御送附相成候ハヾ進呈可仕候

廢物利用

一名すたれ物用方●一冊郵税共五十五錢

大鳥圭介君題字。津田仙君序。樫本善治君閲。近藤賢三君編。

泥を變じて黄金となし塵を化して白銀となし血を用ひて食料となし木屑を製して餅となし寫眞舗の棄り物より銀をとり錫屋の用ひ屑より鉛を取る等凡ろ無用を化して有益の品となし廢物を利用して富貴の途につく奇法八十余條を輯む不景氣を歎ずる人、殖産興業に熱心なる人、貧民救助を計畫する人、ともに一讀して國家の益と圖り玉ふべし

賣捌所

東京麻布本村町 學農社

東京本郷弓町一丁目 女學雜誌社

速記叢書 講談演説集

假洋裝大形美本●定價郵税共特別割引金十四錢(郵劵代用を許)

此書ハ今まで世に行ハる丶筆記と事かハり大家の講談演説を言語寫眞新法にてコトバのまゝ鮮明に寫し取りたる者也

●第一冊目錄●漢字やぶり外一正山君○地球の位置、寺尾壽君○節酒會贊成の趣意、杉亨二君○社會外に道德なし、加藤弘之君

發兌

東京日本橋通三丁目 丸善商社書店○同本町三丁目瑞穗屋○同馬喰町二丁目石川治兵衛○

○女學雜誌合本

從第十一号 至第二十号

右出來上り候ニ付左れ定價を以て需に應ぞ

別製 定價五十錢。郵税廿二錢。通運便十錢。

並製 定價四十五錢。郵税十六錢。通運便八錢。

右の定價及運送賃にて發送いたし候に付御注文の節ハ郵便若くハ通運便何れに致すべきや明記を乞ふ

定價

一冊。四錢	郵税。一錢	(但府内無税)
十冊。卅八錢	郵税。十錢	(同前)
廿冊。七十錢	郵税。廿錢	(同前)
卅冊。一圓	郵税。卅錢	(同前)

一ヶ月分女學雜誌代價	十二錢	府外ハ十五錢
二ヶ月分同	廿四錢	府外ハ三十錢
三ヶ月分同	卅六錢	府外ハ四十五錢
半年分同	六十四錢	府外ハ八十二錢
一年分同	一圓二十錢	府外ハ一圓五十六錢

廣告

一行 一回 (廿八字詰) 前金拾錢

同 三同以上 一割引

同 六回以上 二割引

但し不道德なる事物の廣告と謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送と乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評そ

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町 (大賣捌) 巖々堂

東京神田區雉子町 國々社支店

同 神田區佐柄木町 東海堂

同 日本橋區新葭町 眞明堂

同 日本橋區馬喰町二丁目 自由堂

同 京橋區木挽町壹丁目 萬字堂

同 本郷區元富士町 盛春堂

同 本郷區春木町二丁目 解明堂

同 牛込區肴町 活神堂

大坂備後町四丁目 岡島支店

伊勢國松坂白粉町 家里初枝

東京芝西久保櫻川町 (支局) 萬春堂

發行所

東京本郷區弓町壹丁目廿番地

本局 女學雜誌社

持主兼印刷人 瀧田正義

編輯人 巖本善治

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY